

石橋文化センター

園内散策マップ

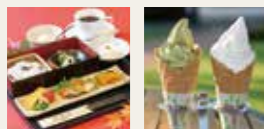
E 和のゾーン

石橋正二郎氏自らの構想による回遊式の日本庭園。耳納連山の山石も使用され、四季折々の豊かな表情を見せます。初春の梅、初夏の新緑、秋の紅葉の時期は特におすすめです。



G カフェ&ギャラリーショップ楽水亭

正二郎氏が好んだ「楽山愛水」という言葉にちなんで名づけられた園内のおもてなしスポット。日本庭園を眺めながらゆっくり過ごせるカフェと、久留米餅・藍胎漆器など地元のお土産品を揃えたギャラリーショップがあり、テイクアウトショップでは軽食も販売しています。



紅葉 (11月)

梅 (1月下旬~3月上旬)

F バラのゾーン

香りの高い品種を集めたバラ園では、小道を巡りながら、多種多様なバラの香りや、色や形の違いを楽しめます。著名人にちなんで名づけられた品種を集めたバラ園で、その人物のイメージと重ね合わせながら観賞するのも楽しいでしょう。

バラ 春:5月~8月、秋:10月中旬~12月



ラ・フランス



ポール・セザンヌ

B 読書と木陰のくつろぎゾーン

図書館の南側に広がる木陰の広場はお茶や軽食を楽しみながら、思い思いに読書をし、自分の時間を過ごすことができるくつろぎのゾーンです。絵本の読み聞かせやミニコンサートなど人々が集い、交流するエリアとしても活用されています。



4 久留米市立中央図書館

久留米市立中央図書館は、1978年に園内の体育館跡地に開館しました。33万冊以上の蔵書があり、気軽に本に親しむ知の拠点として、多くの市民に利用されています。



ハナミズキ (4月)

A メモリアルゾーン

石橋文化センターを寄贈した石橋正二郎氏の想いを感じることができるゾーンです。正二郎氏が故郷久留米の文化向上と発展のために建設寄贈した文化センターの着想を得たのは、視察のため欧米訪問した際のことと自伝には記されています。正門の壁面には正二郎氏の寄贈理念が直筆で刻まれています。同センターの中核施設である美術館前には、正二郎氏自ら設計したフランス式庭園が広がり、みどりのリズム像やペリカン噴水などが配置されました。開園7年後には音楽ホールとして石橋文化ホールが完成。開園60周年を機に、石橋正二郎記念館も開館しました。



1 久留米市美術館

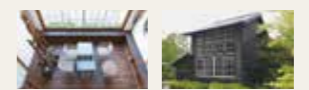
久留米市美術館は、1956(昭和31)年に開館した石橋美術館の60年にわたる歴史と伝統を引き継ぎ、2016(平成28)年11月に開館しました。四季折々の花や緑があふれる庭園に囲まれた美術館は、さまざまな展覧会やイベント、ワークショップなどが開催されます。2階にはミュージアムショップも併設しています。

2 石橋正二郎記念館

石橋正二郎記念館は、(公財)石橋財団により石橋美術館別館を改修し、久留米市に寄贈されたもので、久留米市美術館と同時に開館しました。当記念館では、石橋文化センターの芸術文化の拠点としての変遷と、正二郎氏の歩みやひととなり、映像や音声などのマルチメディア資料なども交えながら紹介しています。

D 創造の森ゾーン

坂本繁二郎旧アトリエを中心に、つばき園、あずま屋、親水広場、睡蓮の池などが連なる自然豊かなゾーンです。自然への興味を高め、創造力を育むワークショップ、コンサートやアート作品の展示など多様な芸術活動の場として活用されています。



6 坂本繁二郎 旧アトリエ

久留米市出身の画家坂本繁二郎の旧アトリエを、1980年に八女市から移築・復元した。園内イベントにあわせ、期間限定でアトリエ内を公開します。



つばき園

2010年国際ツバキ会議において「国際優秀つばき園」に認定。久留米のつばき、世界のつばき、香りのつばきなど5つのゾーンで多種多様なつばきを紹介しています。

つばき 11月~3月



桜 (3月下旬~4月上旬) 紅葉 (11月)

C 花と水辺のヒーリングゾーン

池のまわりを花しょうぶやあじさい、睡蓮、梅など四季折々の花が彩り、アオサギやコイ、カメなどの生き物も楽しめる水辺のゾーン。憩の森には香りの良い植物が植えられ、のんびりゆったりと時間を過ごすことができる癒しの空間です。美術館のすぐ隣に心地よいガーデンテラスもできました。



花しょうぶ (5月下旬~6月上旬)



あじさい (6月中旬~7月上旬)



睡蓮 (5月~7月)



梅 (1月下旬~3月上旬)



- 身障者トイレ
- ベビーチェア
- ベビーシート
- 授乳室
- 喫煙所
- 急勾配



佐賀
西鉄・JR久留米駅

3 石橋文化ホール

1963(昭和38)年完成。正二郎氏と長男 幹一郎氏の熱意によって誕生した石橋文化ホールは、NHK技術研究所の音響設計により、音響効果の良いホールとして多くの音楽家から高い評価を得ています。



みどりのリズム像

清水多嘉示制作の二人の少女が舞うブロンズ像。昭和26年上野公園内設置彫刻コンクールで第一位となった作品で、日本各地に設置されています。

美術館前バラ園

美術館前の花壇には、石橋文化センターのシンボルであるバラが植えられ、春と秋の見頃を迎えると、園内が華やかに彩られ、芳しいバラの香りに包まれます。

バラ 春:5月~8月、秋:10月中旬~12月



ミロのヴィーナス像

パリのルーヴル美術館所蔵のミロのヴィーナス像を、忠実に模したもの。開園当初から美術館の入口で来館者を出迎えています。



ペリカン噴水

中央の3羽のペリカン像は、山本豊市制作「三姿」。開園より20年間「ペリカンプール」の名称で親しまれました。



プール飛び込み台跡

国内初の水中照明を使用し、日本記録や世界記録も生み出した50mプールは1993年に閉園。その飛び込み台が残されました。